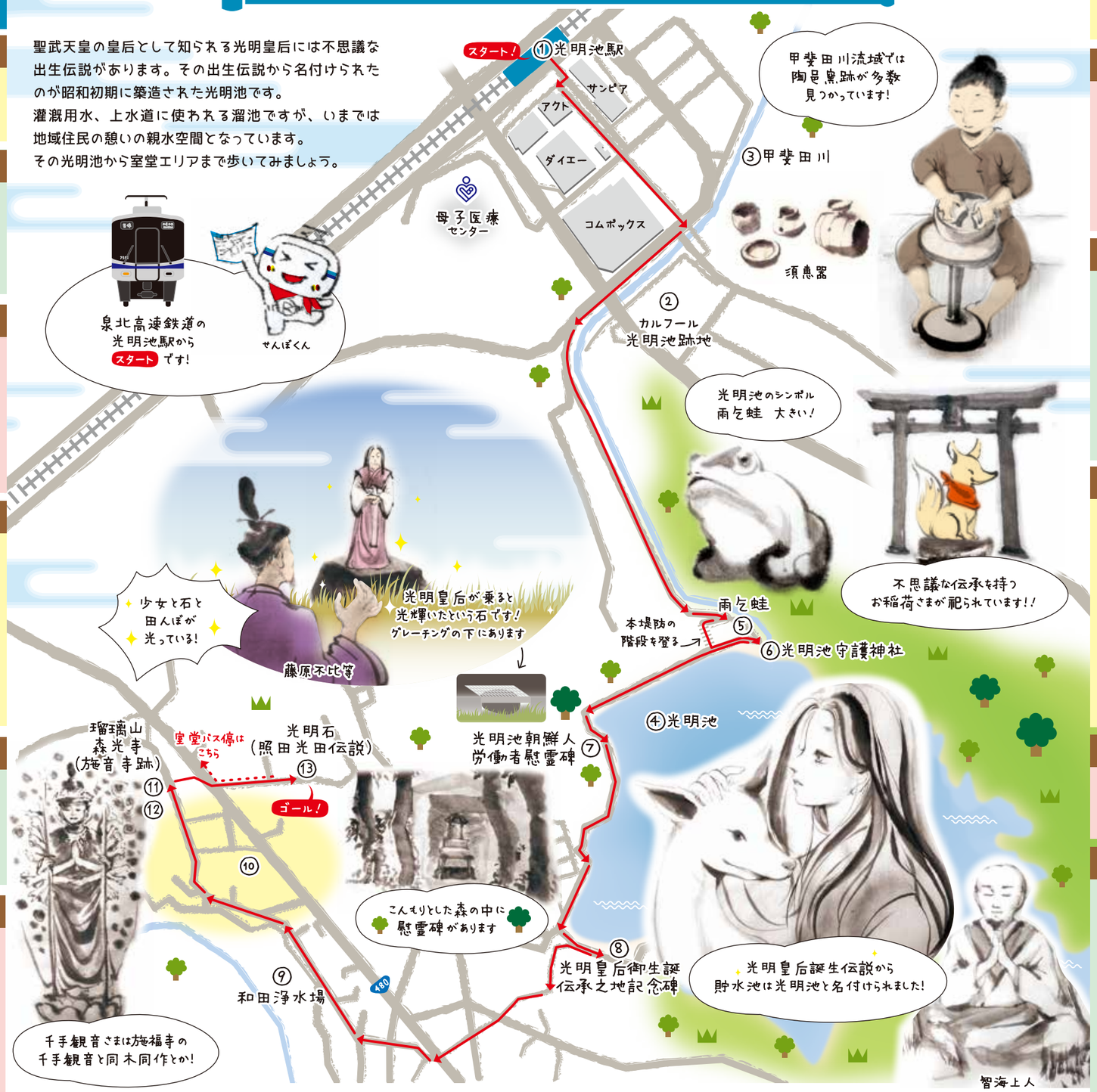
和泉そぞろ

Izumisozoro

光明皇后出生伝説の地！光明池周辺を探る

～甲斐田川から室堂を経て照田光田へ～

聖武天皇の皇后として知られる光明皇后には不思議な出生伝説があります。その出生伝説から名付けられたのが昭和初期に築造された光明池です。
灌漑用水、上水道に使われる溜池ですが、いまでは地域住民の憩いの親水空間となっています。
その光明池から室堂エリアまで歩いてみましょう。



⑬ 光明石（照田光田伝説） ゴール！

藤原不比等が光明皇后を発見したさいに周りの田んぼと一緒に光輝いた石という伝承があります。グレーチングの下に安置されています。

⑫ 安養寺観音の由来碑

かつて松室村には休所山安養寺がありました。宝亀 2 年（771）、行基の高弟・法海上人の開基で、ご本尊の千手観音は槇尾山施福寺の千手観音と同木同作といいます。天明（1781 ～ 1789）頃は八石四斗の寺領を有しましたが、いつしか廃れ、ご本尊だけが森光寺に伝わっています。

⑪ 瑠璃山 森光寺（施音寺跡）

真言宗寺院です。元は万町にありましたが明治 40 年（1907）に移転したといいます。当地には、かつて施音寺という三林・春日神社の神宮寺がありました（明治初期に廃寺）。中興の祖・乗泉坊永算（横田一族の出身）は宝永 3 年（1706）に大般若経（和泉市指定文化財）を修復し、それが森光寺に伝わっています。元は播磨国印達郷（現・姫路市）の北条天満宮に奉納されていた経本で、どういう経緯で伝来したのかはよくわかっていません。

⑩ 室堂町（旧・室堂村）

和田浄水場から北西に向かうと室堂の集落です。池田谷（槇尾川流域）の集落ですが、古代には池田首（景行天皇の後裔）一族が住み、池田寺（室堂町、池田下町界隈）もありました。中世には池田庄と呼ばれて藤原氏の荘園となり、三林に春日神社が勧請されます（藤原氏との関わりが不比等・光明皇后伝説と繋がる説があります）。18 世紀から明治までは三林・春日神社の神官は室堂の横田一族が世襲しました。幕末は下総国葛飾郡（現・千葉県野田市）の関宿藩領で明治 6 年（1873）の室堂村は戸数 75 戸、人員 343 名（男 178 名、女 164 名、僧侶 1 名）と記録されています。

⑨ 和田浄水場

水源は光明池です。和泉市には水量の豊富な河川がないので、水道水は和田浄水場と父鬼浄水場の 2 か所で 18%。足りない分は大阪広域水道企業団（72.7%）、泉北水道企業団（9.3%）から購入しています。和田浄水場は 1 日に 10,000m3（25m プール 40 杯分）の水道水を作ることができます。

⑧ 光明皇后御生誕伝承之地記念碑

光明池は当地の光明皇后（701 ～ 760）生誕伝説から光明池と名付けられましたが、その伝説をモチーフにした記念碑です。槇尾川・浄福寺裏手の岩窟で智海上人が修行をしていると、女鹿が来て上人が小用を足していた岩壁を舐めて懐妊し、女の子を産みました。数年後、藤原不比等が槇尾寺参詣の帰途、室堂村を通ると、田植え作業中の少女が光り輝いていたので、光明子と名付けて養女とします。やがて聖武天皇の寵愛を受けて光明皇后となった…というのが伝説のあらましです。また少女の足は鹿の足の形をしていたので、それを隠すために履かせたのが足袋のはじまりといいます。

⑦ 光明池朝鮮人労働者慰霊碑

光明池工事を請け負った北喜組（南横山村）、東與組（八田荘村）は日本人労働者、中野組（南池田村）は朝鮮人労働者の組でした。中野安吉（姜明祚）は日韓併合後に同胞たちと来日し、紀勢線工事に従事し、その後、大林組から光明池工事を請け負ったといいます。最盛期には 300 人近い朝鮮人労働者が従事しましたが、ツルハシで山を削り、削った土砂をトロッコで堤防へ運ぶという危険な作業で、トロッコがぶつかったり、突然の土砂崩れなどに巻き込まれたりで 12、3 人の犠牲者が出たといいます。石碑は工事犠牲者慰霊のために建立されたものです。

① 光明池駅 スタート！

昭和 52 年（1977）に泉北高速鉄道の駅として開業しました。駅は堺市南区新檜尾台にありますが、車庫は和泉市室堂町にあり、両市に跨る光明池にちなんで駅名が命名されました。駅前にはサンピア、アクト、ダイエー、コムボックスといった商業施設が並び、利便性が高いエリアです。

② カルフール光明池跡地

2001 年、当地でフランス最大のスーパーマーケット・カルフールの関西地区第一号店がオープン。オートウォーク（階段ではないスロープ式エスカレーター。ショッピングカートのまま移動できる）、インラインスケートのスタッフなどが話題となりましたが、業績悪化でカルフールは日本から撤退。2005 年にイオンに売却され、それも 2014 年に閉店し、現在はマンション（ウエリス光明池）となっています。

③ 甲斐田川

光明池から北流して、鴨谷を経て途中、暗渠となりますが和田川に合流。さらに北流して和田川は石津川と合流して大阪湾に流れ込みます。和泉丘陵・陶邑窯跡群のあいだを流れていて、甲斐田川流域では 5 世紀と 8 世紀の窯跡が数多く発見されています。5 世紀に甲斐田川流域に窯業が広がり、しかし過剰な森林伐採によって 6 世紀、7 世紀は窯業が衰え、森林が回復し始めた 8 世紀から、また窯業が広がったのでは？と推測されています。また甲斐田川は光明池の水が溢れたり、堤防が決壊しないように常時、余剰な水を放流する「除川（よけがわ）」の役割も果たしています。

④ 光明池

昭和 6 年（1931）から建設が始まり、昭和 11 年（1936）に本堤防が完成。不要溜池の開田や導水路開発などは戦後の昭和 23 年（1948）によやく完成しました。槇尾川から導水され、満水時貯水量は約 370 万立方メートルで府下最大です。また満水面積は約 36 ヘクタールで府下では岸和田市・久米田池、大阪狭山市・狭山池に次ぐ 3 番目の広さを誇ります。最盛期の灌漑面積は約 1700 ヘクタールに及びましたが、減反政策などで現在は約 300 ヘクタールほどです。上水道の水源としても利用されています。戦争中には出征兵士の無事を祈って、残された家族が「行ってこい、帰ってこい」と 2 匹の鯉を願掛けしながら密かに池に放流したといいます。

⑤ 雨乞蛙

光明池守護神社再建 20 周年記念として池を管理する光明池土地改良区が「水不足を克服しようと努力した先人の思いを忘れず、原点に返る(蛙)」という思いを込めて平成 15 年(2003)に設置しました。

⑥ 光明池守護神社

昭和 11 年（1936）、光明池築造時に水分宮と白狐稲荷神社が建立されました。水分宮は水不足に悩まないように。白狐稲荷神社は工事中に突然、一人の朝鮮人労働者に狐が憑いて弁当箱を咥えて四つ這いに走り回って、あらぬことを口走るという怪奇現象を起こして作業が中断したことがあり、それを鎮めるためだったといいます。しかし月日が経つにつれて風雨に晒されて荒廃し、関係者の尽力で昭和 59 年（1984）に再建されました。第一殿（中央）は吉野水分（みくまり）神社、第二殿（右）は大神神社。第三殿（左）は伏見稲荷大社の御分霊を祀っています。神社裏の石柱に「大林組 武藤寅也」、鳥居に「中野組 中野安吉」「北喜組 北野楠治郎」「東與組 西野與吉」の名前があり、光明池建設工事を請け負った土木業者です。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和 4 年（2022）2 月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

プロデュース｜陸奥賢［ 観光家／大阪まち歩き大学学長 ］ コーディネーター｜宝楽陸寛［NPO 法人 SEIN／コミュニティ Lab 所長 ］ イラスト＆マップ制作｜もんちほし（青木真知子） 協力｜いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生（糸ちゃん／ Mickey ／ Macy ／ T.A. ／ M.K. ／古川光）

和泉そぞろ

Izumisozoro

日本最大級の弥生遺跡！池上曽根を訪ねて
-油池跡、幻の池上神社から「いずみの高殿」まで-

池上曽根遺跡の第一発見者は地元在住の南繁則氏でした。南家は江戸時代から続く池上の旧家で、幕末には志士・歌人の佐久良東雄が来訪し、戦後も著名な学者が訪れています。信太山駅から池上曽根遺跡周辺を巡ります。

1　信太山駅

昭和4年（1929）、阪和電気鉄道の停留場として開業。当地に駅が設置されたのは池上出身の地主・土建業者で衆議院議員にもなった南鼎三の尽力です。駅山手の黒鳥山界隈は高級住宅地として開発され、阪和スキートハウス（1931年開業・リゾート温泉施設）や信太山ゴルフリンクス（1936年開場・上田治設計）もできて人気行楽地となりますが、戦時中に閉場。現在は大阪市立信太山青少年野外活動センターなどです。

2　油池跡（駅前ロータリー）

江戸時代、池上村には油池、千草池、菱池、今池と多くの溜池がありました。油池は昭和43年（1968）に売却され、現在は信太山駅前ロータリーです（売却金は池上公民館の建設費になりました）。油池には弁天山という小山があり、太い楡の木が2本あり、石棺や陶器、石製の枕などが出てきて古墳だったという記録があります。

3　池上町（旧・池上村）

江戸時代の池上村は「本郷」（屋敷地）は大和小泉藩、「出作」（耕作地）は和泉伯太藩が支配し、本郷の庄屋は本家の南甚左衛門家、出作の庄屋は分家の南角右衛門家が世襲していました。明治9年（1876）調査で戸数70戸、村人286人（男141人、女145人）、牡牛22頭、牝牛1頭の記録があります。明治初期に池上村在住の神山喜代松が堺でガラス工芸を学び、それを村民に伝え、池上の特産となりました。

4　大悲山 光楽寺

河内丹北郡我堂村の善正寺の道場であったという記録があります。道場時代には「ゼンモ」と呼ばれる長老がいたといいます。正徳2年（1712）に横田監物（本願寺家臣）の名で寺号と木仏が与えられ、元和（1615～1624）頃の過去帳も現存し、400年近い歴史を誇ります。

5　寶珠山 養福寺

寺伝では元禄元年（1688）開山。文政（1818～1830）頃は二間梁の小寺で、近くには「小寺脇」という小路や「小寺」姓の家もあったといいます。本堂は明治の神仏分離令で廃寺された堺・百舌鳥八幡宮の神宮寺を移転・再建したものです。寺宝に狩野探幽門下で薩摩藩御用絵師になった桃田柳栄（1647-1698）の『仏涅槃図』があります。柳栄は池上村出身（諸説あります）で庄屋・南清太夫（甚左衛門家の先祖）の推挙で大和小泉藩・片桐公の小姓となり、江戸で修業しました。池上には分家筋の子孫が今も在住で桃田姓の家も残っています。

6　佐久良東雄記念碑（非公開）

尊皇志士、歌人、国学者の佐久良東雄の歌「かくしつつ　うちかたらうも あわれなる いつかむかしに ならむとおもへば」が刻まれた石碑で代々、池上の庄屋を務めた南甚左衛門邸内にあります。佐久良は江戸の画家・渡辺崋山邸で南繁信と交流し、それが縁で弘化2～4年（1845～1847）頃に南家の茶亭・枯草庵に寄寓し、密かに尊皇討幕運動を展開しました。その後、東雄は坐摩神社神官となり、大坂に移住しますが、桜田門外の変に関わり、獄中死しました。昭和15年（1940）には道頓堀中座にて佐久良東雄の歌舞伎『さくら あづまを』が上演され、物語には南繁信も登場します。

7　池上町だんじり小屋

かつて池上村には池上神社（稲村神社、西天神、西の宮）、上泉神社（東天神、東の宮）がありましたが、明治42年（1909）、曽根神社に合祀されました。そうした関係から池上のだんじりは和泉市ではなく泉大津市の曽根・助松連合に所属し、曽根神社に宮入します。だんじり小屋周辺が池上神社の跡地です。

8　大悲山　金蓮寺

開創時期は不明ですが、平安末期と推測される大日如来の梵字が刻まれた古瓦が出土しています。信長の兵火で焼失したという伝承もあります。寛文（1661～1673）頃に庄屋・南清太夫と縁があった龍頭和尚が中興の祖となりました。文政（1818～1830）頃に理哲という住職が村人に「天狗など迷信である」とわからせるために釣竿に干物をつけて大峰山で天狗吊りをしたといいます。

9　大阪府立 弥生文化博物館

平成3年（1991）開館。日本屈指の弥生時代遺跡である、国指定史跡・池上曽根遺跡に隣接し、日本で唯一、弥生時代をテーマにした歴史博物館です。有料。

10　池上曽根 弥生情報館

池上曽根史跡公園のインフォメーションセンターです。池上曽根遺跡の情報発信や見学者の受付案内を行っています。無料。

11　池上曽根遺跡

明治36年（1903）、当時14歳の南繁則が自宅の土塀（池上曽根遺跡周辺の土を使っていた）から石鏃を発見しました。教師から古代の遺物と教えられて興味を持ち、自宅周辺で石器・土器を収集しはじめ、大正10年（1921）には長頸壺を発掘。その後も坪井正五郎、鳥居龍蔵といった著名な学者を招き、遺跡保全活動に生涯を捧げました。発掘調査が進むと池上町と曽根町にまたがる南北1.5キロ、東西0.6キロ、総面積60万平方メートル（東京ドーム13個分）に達する弥生時代中期の大集落遺跡と判明し、昭和51年（1976）に国史跡に。「やよいの大井戸」（巨大丸太くりぬき井戸。直径2m、深さ1.2m。樹齢700年の楠による一木造）、「いずみの高殿」（高床式大型建物。使われていた柱が年輪年代測定法調査で紀元前52年伐採と判明）などが復元されています。

12　曽根神社（和泉大津市）

社伝では天武天皇4年（675）創建で物部一族「曽祢連」が祖霊を祀ったといいます。祭神は曽根連・物部氏の祖「饒速日命（にぎはやひのみこと）」「伊香我色雄命（いかがしこおのみこと）」などです。『和泉名所図会』では天神社と記録され、境内に神牛像が残っています。池上村の氏神（池上神社、上泉神社）も合祀されています。また戦国時代に活躍した和泉三十六郷士のひとり・玉井壱岐守源秀が築いた曽根城があったといいますが詳細不明です。

13　和泉市立池上小学校

かつて千草池がありましたが、昭和52年（1977）に和泉市に売却、小学校用地となりました。校門前に「池上曽根遺跡」碑があります。周辺は池上曽根遺跡の環濠や周溝墓などが広がっていたと推測されています。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和4年（2022）2月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

プロデュース｜陸奥賢［観光家／大阪まち歩き大学学長］ コーディネーター｜宝楽陸寛［NPO法人SEIN／コミュニティLab所長］　イラスト＆マップ制作｜田中保帆　協力｜いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生（駒澤重信／むらかみあきら／森井豊／はるバンダ）

和泉そぞろ

izumisozoro

説経節『小栗判官』の舞台！小栗街道を行く

～信太貝吹山古墳から南王子村の八阪神社、西教寺へ～

江戸時代、泉州最大の一揆と呼ばれる千原騒動の舞台となった信太貝吹山古墳から白狐化石伝説が残る舊府神社、明治天皇が陸軍大演習のさいに訪れたという中央寺を経て、旧南王子村を巡ります。寺田治平衛頌徳碑のある八阪神社、南王子水平社の創立の舞台となった西教寺も必見です！

①北信太駅

昭和7年（1932）、阪和電気鉄道（昭和15年に南海と合併。昭和19年に国有化。現・JR阪和線）の葛葉稲荷停留所として開業しました。駅東口に藤原重夫作の絵『葛の葉子別れ』が掲示されています。安倍晴明の母・葛の葉の正体が信太の森の白狐だとばれてしまい、「恋しくば尋ね来て見よ和泉なる信太の森のうらみ葛葉」と歌を書き残す場面です。藤原重夫（1940～）氏は和泉市出身の画家、僧侶で高野山などで数多くの仏画を手掛けています。

②PATISSERIE MOHN（パティスリー モーン）

フランス料理のコックを務めていたオーナーがパティシエとなり、1991年に開業しました。シュークリームが人気です。

③信太貝吹山古墳

帆立貝形古墳で、築造時期は古墳時代中期（5世紀前半）、墳丘長約60m、後円部直径約50m・高さ7.7mといわれています。平成15年（2003）に和泉市指定史跡になりました。天明2年（1782）、凶作で年貢減免を求めて一橋領の大鳥郡・泉郡54か村の住民たちが一揆（千原騒動）を起こしましたが、そのさいに法螺貝を合図に当地に集まったので貝吹山と呼ばれたといわれています。

④リアーナ（日本人造真珠硝子細貨工業組合）

『日本ガラス工業史』によると神功皇后が三韓征伐の帰りに高麗のガラス玉職人を連れて堺に移住させて「泉州玉」が誕生。江戸時代には念珠玉、玉簾、玉簪などが作られ、堺から大坂・京に送られたと伝えられています。明治初期には池上村の神山喜代松が堺で修行し、和泉にガラス細工技術が伝播。また明治末期に大阪のガラス商・大井徳次郎がフランスのアクセサリーパールを研究して太刀魚の鱗を塗装する人造真珠を発明すると、その技術も伝わって和泉の地場産業となりました。現在、和泉市の人造真珠の全国シェアは7割近いといいます。リアーナにはショールームがあり、アクセサリー手作り体験などが開催されます。

⑤舊府神社（ふるふじんじゃ）・白狐化石）

御祭神は素盞嗚尊。延長5年（927）編纂の『延喜式』にも記されている古社です。かつて当地に和泉国府があったので「舊府（古府）」になったという説があります。白狐化石は葛の葉が猟師から逃げるために化けたものといいます。元は小栗街道（熊野街道）にありましたが、昭和22年（1947）に当社に祀られました。

⑥長岡山中央寺

黄檗宗寺院。鎌倉時代に細川氏の菩提寺であった中尾寺を元禄3年（1690）に慧極道明（1632～1721）禅師が中央寺として再興したといいます。江戸時代は聖神社近く（現・中央寺霊園辺り）にありましたが、明治10年（1877）に現在地に移りました。寺伝では明治32年（1898）の陸軍特別大演習（黒鳥山に記念碑があります）に明治天皇が訪れ、その記念に楠を植樹しました。残念ながら枯死し、現在は2代目の楠が生えています。

⑦聖神社一の鳥居

小栗街道（熊野街道）から聖神社に向かう参道の入口です。信太・幸地区のだんじり祭では一の鳥居から、だんじりが長く急な坂道を駆け上がって宮入するのが見せ場のひとつです。聖神社には宮本町、尾井町、富秋町、葛の葉町、太町、上町、上代町、王子町、幸町の9つのだんじりが宮入します。

⑧篠田（信太）王子跡

平安時代後期に熊野詣が流行し、「蟻の熊野詣」と称されるほど大勢の参詣人で賑わいました。街道にある遥拝所が九十九王子で、和泉市内には篠田（信太）、平松、井口の三王子があります。藤原定家の記録では後鳥羽院の一行が篠田（信太）王子で禊ぎし、信太明神（聖神社）に参拝しています。王子町の地名は王子社があったことに由来します。

⑨小栗地蔵

説経節『小栗判官』の舞台になったので熊野街道は小栗街道ともいいます。恋人同士の小栗判官と照手姫が敵対者に騙され、小栗は毒を飲まされて餓鬼に、照手は流されます。ひょんな偶然で2人は再会しますが、照手は小栗の変わり果てた姿に恋人と気づきません。熊野参詣すれば餓鬼が治ると聞き、照手は小栗を土車に乗せて熊野に向かい、最後は熊野権現の霊験によって小栗は復活し、照手と結ばれるといった筋書きです。小栗地蔵は小栗街道にあるので、この名がついたと思われます。また地蔵堂から南が、かつての南王子村です。

⑩八阪神社

南王子村の村民は、古くは聖神社と万松寺（神宮寺）の間に住み、神社に奉仕していました。しかし人口増加によって村移転を繰り返し、慶長11年（1698）に現在地に移ります。村民は鎮守社を持ちたいと考えましたが、領主の一橋藩から許されず、そこで地域に古くからあった小祠を文政9年（1826）に再建し、鎮守社（牛頭天王社。現・八阪神社）としました。この時、泉州一橋藩領の庄屋を務めていた池浦村（現・泉大津市）の豪農・寺田治兵衛が神社再建に尽力します。しかし西教寺（寺方）と牛頭天王社（宮方）の争いなどが起こり、治兵衛は失脚。野洲一橋藩領（現・栃木県高根沢町）に流され、牢死しました。境内に治平衛の頌徳碑があります。

⑪小栗判官の笠かけ松・照手姫の腰かけ石

永尾緑地内にあります。かつては立派な松があり、小栗が笠をかけ、傍石に照手が腰かけたという伝承があります。

⑫阿耨山 西教寺

浄土真宗本願寺派。文禄3年（1594）以前の創立といいますが詳細は不明です。寺伝では桜田門外の変に参加した水戸藩士を匿い、のちに寺子屋の先生になったといいます。大正12年（1923）、本堂で南王子水平社創立大会が開催され、全国水平社の西光万吉、栗須七郎、山田孝野次郎、南梅吉などが出席しています。南王子村出身の岸田岡太郎（1893～1924）は弁護士となり、水国事件（奈良の水平社と国粋会とが衝突した事件）などで活躍しましたが、夭折し、西教寺で追悼会を行っています。また南王子村出身の浪曲師、節談説教師の達田良善（1890～1963）も西教寺で活動しています。約60年間、160冊以上に及ぶ『達田良善日記』は旧南王子村史を語る上で外せない第一級史料として高く評価されています。

⑬佐竹ガラス

昭和2年（1927）創業。伝統的和風建築の主屋や事務所が工場と一体となっているのが貴重で、国登録有形文化財です。ガラス工芸のショールームやワークショップなども開催されています。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「和泉市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和４年（2022）２月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

■プロデューサー｜陸奥賢（観光家／大阪まち歩き大学学長）■コーディネイター：宝楽陸寛（NPO 法人 SEIN ／コミュニティ Lab 所長）■イラスト＆マップ制作｜フジワラトモコ ■協力｜いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生（やまでひろむ／スマイル佐藤／いまづひろこ）